

IoT活用推進モデル事業（半田市水道部）

□半田市では、スマートメーターを導入し、IoT技術を活用し、以下の業務課題の解消やお客様サービスの向上を図る

【業務課題】

・検針業務の人員不足や経費削減、誤検針や難検針の解消 ・漏水の早期発見 ・Web明細票などの導入による郵便費等の削減 など

【お客様サービスの向上】

・市福祉部と連携した要支援者等の見守り体制の確立、独居老人等の希望する住宅のスマートメーター化による見守りの強化
・集中検針を実施している中高層住宅等の設備更新費用の削減(集中検針盤が不要になることによる) ・水量の見える化 など

導入計画

◆事業期間

令和7年度～令和14年度

◆設置箇所

集中検針の集合住宅、市営住宅、官公署(小中高等学校等)、企業(大口径)、
独居老人等でスマートメーター化を希望する戸建て住宅等

◆設置個数:約7,000個を予定(市メーター、私設メーター合計)

内訳(市メーター約800個、私設メーター約6,200個)

半田市水道部上水道課料金担当

TEL:0569-84-0680 / Email:jousui@city.handa.lg.jp

費用比較（集中検針／φ13×16戸の住宅の場合）

項目	①集中検針盤			②スマート化		
	単価	数量	価格	単価	数量	価格
13mm電子メーター	8,000	16	128,000	8,000	16	128,000
集中検針盤	1,500,000	1	1,500,000	—	—	—
メーター設置工事	4,000	16	64,000	4,000	16	64,000
検針盤設置工事	70,000	1	70,000	—	—	—
結線調整	2,000	16	32,000	—	—	—
通信端末	—	—	—	8,000	16	128,000
端末設置工事	—	—	—	2,000	16	32,000
合計	—	—	1,794,000	—	—	352,000
※1戸当たりのコスト	—	—	112,125	—	—	22,000

☆集中検針の集合住宅では、現行でも電子メーターを使用しており、子メーター自体の費用に大きな差は無い一方で、スマートメーター化することで集中検針盤が不要となり、大きな費用削減が見込める。

スマートメーター導入による付加効果（独居高齢者等の見守りに活用）

① 異常検知時のアラーム情報通知先の設定(家族等へのメール通知体制を確立する)

異常通知
(任意に設定した条件)

家族・支援者(ケアマネジャー等)

② 通知先が設定されていない場合の見守り体制の構築(現在市福祉部等と協議中)

異常通知
(水の連続不使用)

建築課

異常通知
(水の連続不使用)

上水道課

福祉部

地域福祉課
(65歳未満)

高齢介護課
(65歳以上)

安否確認

福祉部との協議

(令和7年1月)
スマートメーターに関する
説明会の開催
(対象者：福祉部、建築課)

(令和7年2月～)
見守り体制の協議

(令和7年4月以降)
見守り体制の確立